

# 青年海外協力隊としての 日本の教育情報の整備と活用

佐藤真理子  
(筑波大学人間総合科学研究科)

# 途上国の教育開発に有効と考えられる日本の教育情報に関する教材作成

## — 発信 —

### 「日本の教育制度と教育実践—研修のためのヴィジュアル教材」

日本語版・英語版

CD-ROM、及び印刷物

平成13～17年度事業

「日本の教育制度と教育実践 ー研修のための  
のヴィジュアル教材」平成17年度版作成

# 「日本の教育制度と教育実践—研修のためのヴィジュアル教材」平成17年度版の改訂

- ・平成18年度 教育基本法改正
- ・平成19年度 学校教育法改正
- ・平成20年度 学習指導要領の改正
- ・最新の統計資料

# 教材の対象

- ・途上国研修生に対する日本での受け入れ研修
- ・海外教育関係者への日本の教育説明
- ・海外での教育関係者のニーズに応える資料  
(青年海外協力隊隊員等派遣者携帯)
- ・その他

# 9教材領域

- I 学校制度の概要
- II 教育行財政の概要
- III 社会教育の概要
- IV 教育課程の編成と実施
- V 学級運営
- VI 学校運営
- VII 保護者・地域との連携
- VIII 教員資格・養成・任用・研修
- IX 学校の生活と文化

- I Outline of Japanese School System
- II Japanese Educational Administration and Finance
- III Japanese Social Education
- IV Organization and Implementation of Curriculum
- V Classroom Management and Guidance
- VI School Management
- VII Cooperation between School and Local Community
- VIII Teacher's Qualifications, Training and Appointment
- IX Japanese School Life and Culture

# 小領域

・学校制度の概要	11	小領域
・教育行財政の概要	22	小領域
・社会教育の概要	9	小領域
・教育課程の編成と実施	16	小領域
・学級運営	11	小領域
・学校運営	15	小領域
・保護者・地域との連携	18	小領域
・教員資格・養成・任用・研修	12	小領域
・学校の生活と文化	4	小領域
合計	118	小領域



# 例：学校経営の小領域（15）

1. 学校経営
2. 学校経営計画
3. 学校教育目標
4. カリキュラム経営
5. 職員会議
6. 校長の職務・力量
7. 民間人校長
8. 校務分掌
9. 主任制
10. 学校評価
11. 教員評価
12. 学校の危機管理
13. 学校選択制
14. 学校力
15. 日本の学校経営改革

# 各教材領域の項目数

・学校制度の概要	44項目
・教育行財政の概要	38項目
・社会教育の概要	41項目
・教育課程の編成と実施	75項目
・学級運営	44項目
・学校運営	40項目
・保護者・地域との連携	71項目
・教員資格・養成・任用・研修	20項目
・学校の生活と文化	67項目
合 計	490 項目

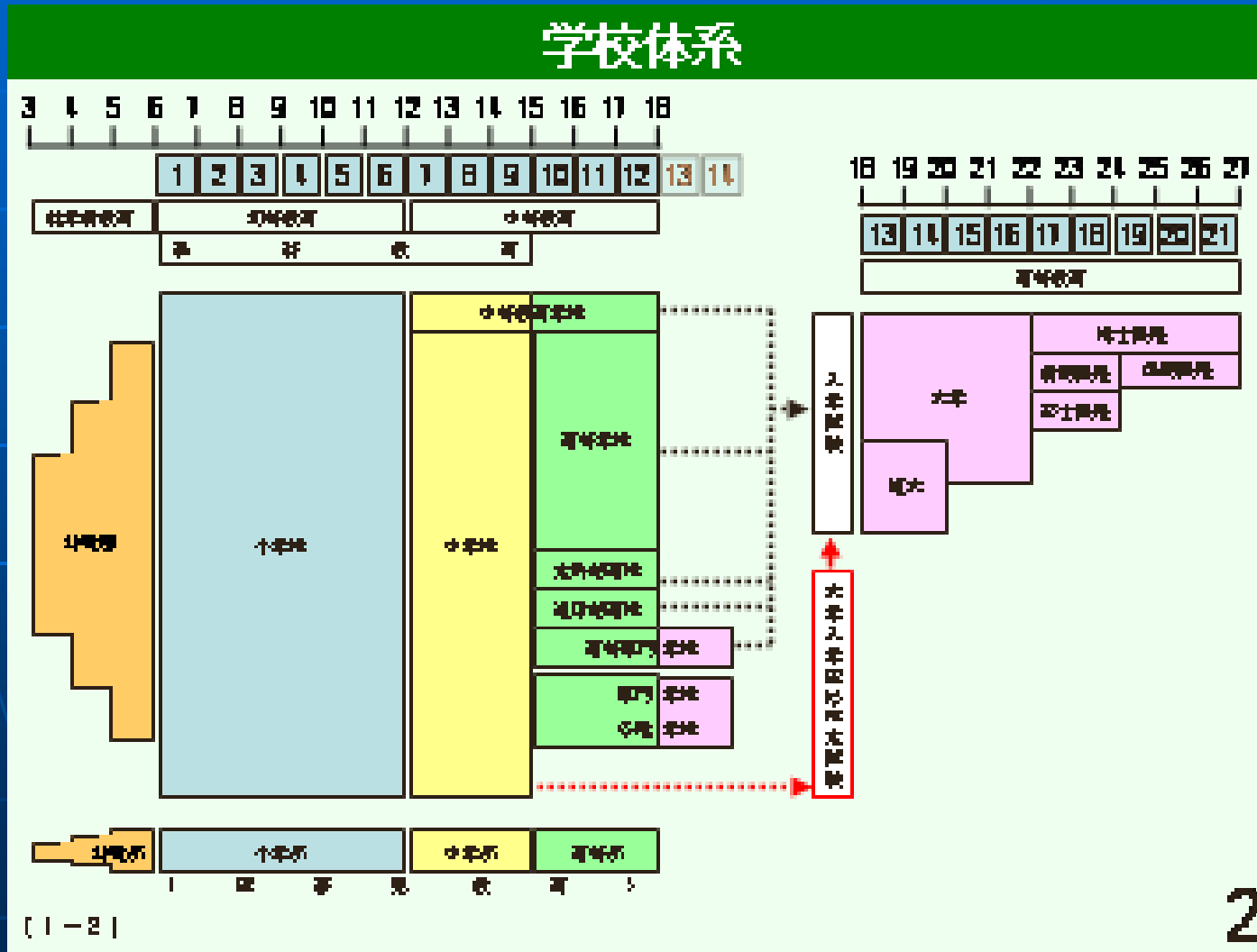
# 教材の作成

1項目には

図 or 写真 or 概要説明、  
及び解説から成る。

- ・日本語版と英語版の作成

# 学校制度の概要



# 社会教育主事 : Supervisor for Social Education

区分	社会教育主事			社会教育主事補			派遣社会教育主事
	計	都道府県	市町村	計	都道府県	市町村	
平成2年	4173	870	3303	457	31	426	1645
5	3983	792	3191	431	34	397	1623
8	4000	785	3215	454	49	405	1643
11	3599	740	2859	340	33	307	1326
14	3279 (653)	756 (14)	2523 (639)	264 (87)	46 (-)	218 (87)	1056

# 教育行財政

## 教育行政をめぐる改革動向(1)

●1948年 **教育委員会法**

●1954年 **教育二法**

- ・**教育公務員特例法**の一部改正  
(教員の政治的活動について、それを国家公務員と同じにするというもの)
- ・義務教育諸学校における教育の政治的中立の確保に関する臨時措置法(**中立確保法**)

●1956年 **地方教育行政の組織及び運営に関する法律**

●1971年 **四六答申**：

「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について(答申)(第22回答申)」

●1987年 **臨時教育審議会最終答申**

●1999年 **地方分権一括法**

# Reform Movement in Educational Administration (1)

- 1948 Board of Education Law
- 1954 Revision of the Educational Personnel Certification Law, and Promulgation of Law concerning Continued Neutrality of Education
- 1956 Law concerning the Organization and Functions of Local Education Administration
- 1971 Final Report of the Central Council for Education
- 1987 Final report of the National Task Force for Educational Reform
- 1999 Law concerned with the advancement of regional devolution

# 教育行政をめぐる改革動向(1)

- 60年代までは、主に教育行政をめぐる戦後改革の変容、70年代以降は中央集権から地方分権へという動向が見られた。教育委員会法によって民主化の原理に基づいて再出発した日本の教育行政であったが、教育の政治的中立を図ることが政策課題であった50年代の半ばに教育委員会法は大幅に改正されて地方教育行政の組織及び運営に関する法律の成立を見た。ここで、教育行政の中央集権化が進んだ。臨教審答申の3本柱(個性重視、生涯学習体系への移行、国際化情報化等の社会の変化への対応)に基づいて、80年代半ばから具体的に展開される教育改革の原型を71年の中教審答申に見ることもできる。



The adjacent flow chart shows that until the 1960s, post-World War II reforms focused mostly on educational administration. After the 1970s, reforms shifted from centralization to decentralization.

The Board of Education Law in 1948 enabled Japanese educational administration to start over based on the principle of democratization. During the 1950s, when the key policy concern was to secure political neutrality in education, the Board of Education Law was revised and the Law concerning the Organization and Functions of Local Educational Administration was enacted. These reforms promoted centralization of educational administration. We can see the prototype of the educational reform steps taken since the 1980s in the Report of the Central Council for Education based on the three principles (respect for the individual, transition to a lifelong learning system, accommodation to the changes in society such as internationalization and information exchange).

# 不登校： Enrollment & Non-Attendance



- In addition to special classes for school absentee children, there are similar facilities also in private free schools ( $\rightarrow V - 25$ ) and free spaces to provide educational instruction for school dropouts. Attendance at these classes is considered equivalent to school enrollment.
- (**Measures for School Refusal**  
 $\rightarrow V - 20 \sim 30$ )

# 今までの活用

- ・インドネシア・エチオピア・スリランカ・タイの教育関係者(校長・副校長・教員)への日本の教育説明(現地)
- ・アメリカ・ロシア・カタールから来日した教育関係者(校長・副校長・教員・教育行政官)への日本の教育説明
- ・青年海外協力隊員等派遣者に対する配布
- ・その他(アーカイブのダウンロード)

# 入学式: Entrance Ceremony



# 始業式・Opening Ceremony



# 給食 : School Lunch



# 掃除の時間・Cleaning Time

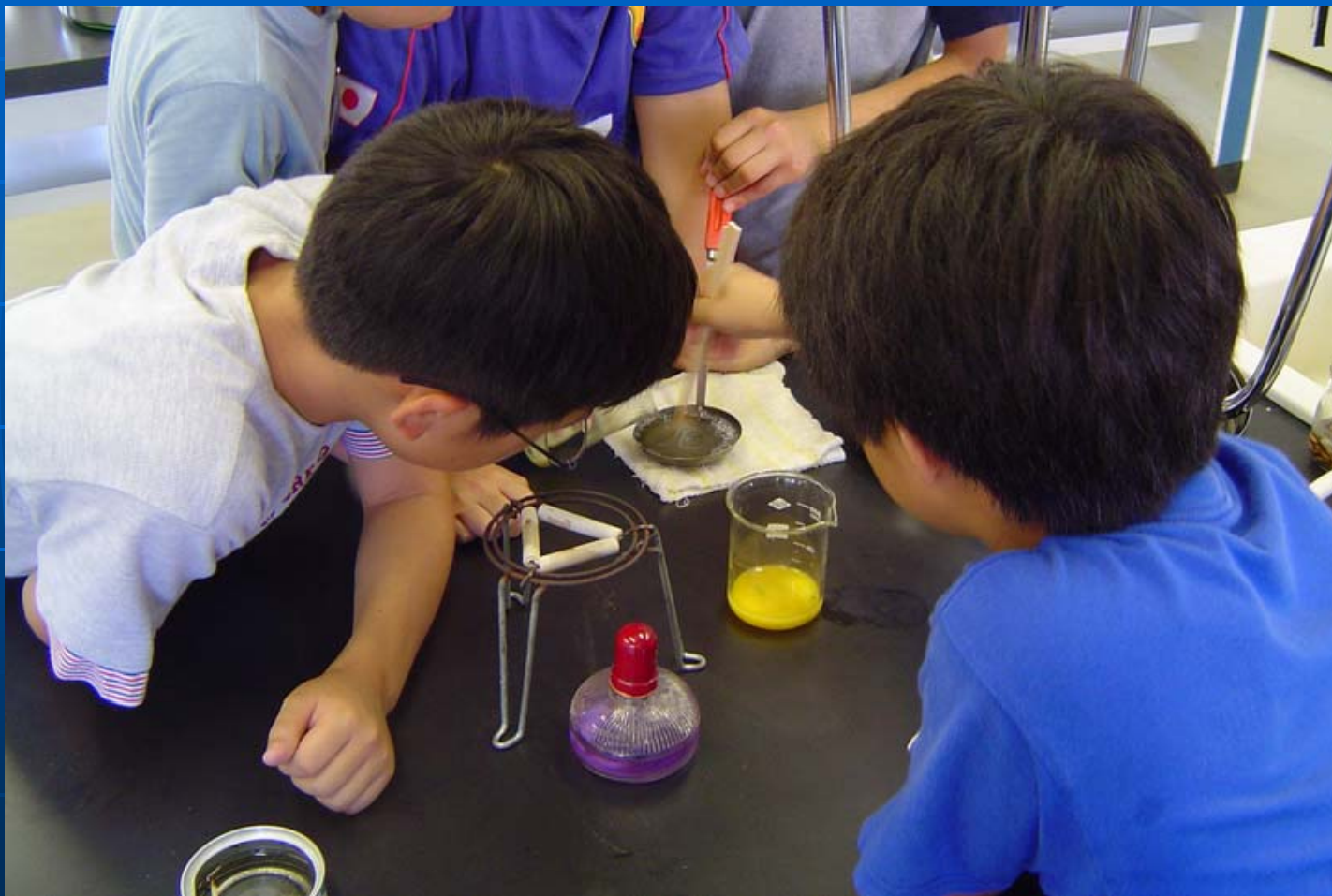


(1年生、2003年12月)





# 特別活動(クラブ活動) Special Activity :Club Activity



# CD教材から研修キットの作成

各教材領域から研修対象にあった研修キットを作成

研修キット：30分から1時間：15項目～30項目

# 情報発信

- 日本の教育経験の情報整備作業として、教材の日本語版及び英語版を拠点システムアーカイブスに掲載。
- 高いダウンロード